

**授業概要**

本演習は学生に幅広い分野に関心を持ってもらい、自分の問題意識を探る演習講座です。問題意識は、SDGs（持続可能な開発目標）との関連で探ることが大切です。SDGs に向かって社会を作っていくのは皆さん一人ひとりだからです。そのため、SDGs を解説している文献を輪読します。

本演習では、身近な人間関係で構築された世界のみならず外の問題にも関心を持ってもらうことを基調として、卒業論文作成の基礎知識が身に付くよう指導します。大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力することによって、当該問題に関心を持つことを促します。また、文献を輪読することによって問題提起ができるようになることを促します。

外の問題にも関心を持って問題提起ができるようになると、どんな分野の専門演習を3年次に履修しても良い卒業論文を書くことができます。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第 2 回	履修計画を立てる 時間割表の作成
第 3 回	体育祭 紹介・参加申込
第 4 回	履修登録 確認
第 5 回	ゼミ紹介文作成 写真撮影
第 6 回	オープンキャンパス 紹介・参加申込
第 7 回	図書館ツアー 蔵書探索・蔵書検索
第 8 回	自然体験プログラム 紹介・参加申込
第 9 回	図書館ツアー データベース検索
第 10 回	ウェディングケーキの図 環境①
第 11 回	ウェディングケーキの図 環境②
第 12 回	産学連携活動 紹介・参加（協力）申込
第 13 回	大学祭 紹介・参加申込
第 14 回	プレゼンテーション①
第 15 回	プレゼンテーション②
第 16 回	

**到達目標**

- ・身近な人間関係で構築された世界のみならず、外の問題にも関心を持つことができる。
- ・要約および問題提起を含む報告資料を事前に作成することができる。
- ・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。

**履修上の注意**

・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。

・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生に関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻3回で欠席1回分にカウントします。

・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

**予習・復習**

予習・復習および発展学習を兼ねて教科書をよく読むこと。

**評価方法**

発表 50%、演習などへの取り組み姿勢 50%で評価します。また、毎回出席を取ります。

**テキスト**

- ・教科書名：SDGs（持続可能な開発目標）（中公新書 2604）
- ・著者名：蟹江憲史
- ・出版社名：中央公論新社
- ・出版年月：2020年8月 ISBN：978-4-12-102604-0 本体 920円＋税

**授業概要**

今日、地球上では様々な重大かつ深刻な出来事が次々と毎日のように起きている。ユニバーサルに物事をとらえる能力が求められてきている。宇宙の中に存在する地球、地球上の一国家に生きる人間と考えなければならなくなってきた。地球温暖化は深刻化してきており、世界中で自然災害が発生している。地球上には人類以外にも様々な生物が生存していることを認識しなければならない。また思想の違いなどにより紛争も起きている。一方、テクノロジーが急速に発展してきており、生活環境が大きく変貌してきている。

本演習では、これらの様々な諸課題や変化について、情報を共有し、理解を深めた上で、自らの考えをしっかりと持ち、意見交換をしながら、コミュニケーション能力を醸成し、文章作成も行いながら、表現する能力、伝える能力を培えるよう、指導する。

**授業計画**

第1回	宇宙と地球の歴史
第2回	人類の発展と生物多様性
第3回	人間とは？生とは？死とは？
第4回	地球温暖化
第5回	自然災害
第6回	戦争、紛争
第7回	世界地図でも物事を考える
第8回	未来思考で物事を考える
第9回	意思決定、思想、宗教
第10回	人種、DNA
第11回	国家、領土、領地
第12回	トランスヒューマニズム
第13回	ムーンショット計画
第14回	歴史は繰り返すー人類の変遷からみた現在の国際社会
第15回	まとめ-世界を救うための処方箋
第16回	試験

**到達目標**

- ・相手に自身の考えをしっかりと伝えることができる。
- ・文章を読みこなすことができ、しっかりした文章を書くことができる。
- ・様々な思想や考え方があることについて理解を深められる。
- ・相手の考えに共感することができる。
- ・今、地球上でどのようなことが起きているかについて説明できる。

**履修上の注意**

まずは大学生活に慣れることが重要なので、休まず積極的に参加すること。

**予習復習**

事前に单元ごとに教科書をよく読んで、1時間程度予習してくることと、終了した单元を1時間程度復習すること。

**評価方法**

発表点(25点)、レポート点(25点)、学期末試験(50点)

**テキスト**

教科書名：地政学一サクッとわかるビジネス教養

著者名：奥山真司

出版社名：新星出版社

出版年：2022年 (ISBN：978-4405120099)

**授業概要**

大学では、既存の知識を身につけるだけでなく、世の中にあふれる情報を精査し、整理し、問題を発見し、さらにその問題を解決する方法を見出して、自分なりの結論を導き、それを人に効果的に伝えられるようになることが期待されています。本講義では、そのひとつひとつの作業に関わる技術を、なるべくわかりやすく説明します。具体的には、レポート・論文の作成、研究調査と研究発表の実施に直接的に役立つ内容をあつかいます。

**授業計画**

第 1 回	アカデミック・スキルズとは①
第 2 回	アカデミック・スキルズとは②
第 3 回	講義を聞いてノートをとる
第 4 回	情報収集の基礎①
第 5 回	情報収集の基礎②
第 6 回	本を読む①
第 7 回	本を読む②
第 8 回	情報整理①
第 9 回	情報整理②
第 10 回	研究成果の発表①
第 11 回	研究成果の発表②
第 12 回	プレゼンテーション（口頭発表）のやり方
第 13 回	論文・レポートをまとめる
第 14 回	プレゼンテーションの実践①
第 15 回	プレゼンテーションの実践②
第 16 回	レポートの提出

**到達目標**

- ①アカデミック・スキルズとは何か、説明できる。
- ②情報収集・情報整理ができる。
- ③自分が発見した問題を、情報・データをもとに自分なりの結論を導き、それを人に効果的に伝えられるようになる。

**履修上の注意**

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

**予習・復習**

- ①予習は、テキストの次回の講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

**評価方法**

- ①毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②第 14 回、第 15 回に実施するプレゼンテーションを評価します。20%
- ③レポートの提出を評価します。30%

**テキスト**

- ・教科書名：アカデミック・スキルズ 第 3 版
- ・著者名：佐藤望 編著
- ・出版社名：慶應義塾大学出版会
- ・出版年 (ISBN)：2020 年 (978-4766426564)

**授業概要**

社会人基礎力養成の前提となることを指導します。

- (1) 私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標（夢）実現に立ち向かいます。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断（決定）」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。
- (2) 以上の目的を達成するには、考える力・判断する力・実行する力等が必要ですので、佐藤正勝ゼミのゼミ訓（「なぜ？なぜ？なぜ？」、「だから何だっつうの？」など。）を実践し、4年間を通じて、これらの力（社会人基礎力）等を指導します。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方全般、配付資料等の説明）
第 2 回	アイスブレイキング
第 3 回	社会人基礎力の前提：佐藤正勝ゼミルール・ブックの内容の説明
第 4 回	社会人基礎力の前提：『世の中は、全て、ルールでできている！』
第 5 回	全ての（判断の）前提には、「目的」がある！
第 6 回	基礎力の前提①：元気・挨拶・声掛け・雑談・感謝を！
第 7 回	基礎力の前提②：話ができるには！①：原則
第 8 回	基礎力の前提③：話ができるには！②：質問されて答えられないときは？
第 9 回	基礎力の前提④：やるべきことができなかつた・失敗した！では、どうする？
第 10 回	基礎力の前提⑤：文字で記憶するのは NG! 記憶は絵、図、ベン図等です！
第 11 回	自分史・強み・マンダラチャート初歩
第 12 回	社会常識の初歩
第 13 回	仕事処理能力養成の初歩
第 14 回	私たちの未来社会とは：基礎編
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポートの提出

**到達目標**

社会人としての資質・能力を養成するために、次のことをできるようにします。

- 1 生活と学修の規律を守ることができる。
- 2 （佐藤ゼミ独自の）マンダラ・チャートを作成し（自分の目標を決定）することができる。
- 3 人との対話を、スムーズに行うことができる。
- 4 毎日検定等の用語（社会常識）について、本質を踏まえた絵、図、ベン図を書くことができる。
- 5 社会人としての仕事処理能力養成のためのSPⅠのうち基礎的問題を解くことができる。

**履修上の注意**

- 1 授業には、毎回出席すること。会社員になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をするなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力・判断力が鍛えられます。

**予習・復習**

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、合計4時間とすることが、文科省の基準です。

**評価方法**

期末レポートへの配点が70%、宿題提出・発表の内容等が30%です。

**テキスト**

- ・教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）

**授業概要**

本講義は、大学に入ったばかりのみなさんがこれからの大学生活を「自分らしく」組み立てながら、しかも「学び」を豊かにするために必要な知識やスキルがいっぱい詰まっている。大学は高校までの「学校」とは違い、知識や技術を暗記し、身につけ、試験を受けて良い点を取ればよかった。大学は、一言で言えば「ともに学ぶ場」である。大学で学ぶための心がけを3つ示す。①自分で考える（主体性・自己管理能力）②仲間と考える（協働性・コミュニケーション力）③スキルを使ってみる（積極性・行動力）大学では、教員に教えてもらうというのではなく、自らから進んで学ぶという態度が身につくように指導する。また、知識やスキルは貯めておくのではなく、使ったり、試してみたりすることにより「身につく力」になる。

**授業計画**

第1回	★自己紹介からはじめよう★「大学生になる」とはどういうことだろう
第2回	★大学とはどのようなところだろう★自分の通う大学・学部・学科について知ろう★大学教員や職員の仕事について知ろう
第3回	★キャリアをデザインしよう★大学生活をデザインしよう
第4回	★大学の授業について知ろう★大学生活のリスクやトラブルについて考えよう★定期試験をのりきろう
第5回	★アクティブラーニングをやってみよう★テーマからトピックを取り出そう
第6回	★図書館で資料をさがそう★インターネットで情報をさがそう★本を手にして読んでみよう
第7回	★図解で考えよう★表・グラフを使って考えよう★議論の方法を知ろう
第8回	★レポートの文章の特徴を知ろう★レジュメを作成してみよう★レポートの基本を知ろう★レポートを完成させよう
第9回	★発表の資料をつくろう★発表をやってみよう★1年間（半期）の学びをふりかえろう
第10回	レポート発表
第11回	レポート発表
第12回	レポート発表
第13回	レポート発表
第14回	レポート発表
第15回	レポート発表
第16回	期末レポート

**到達目標**

みなさんが本講義を受講することで、次の2つのことができるようになることを期待している。  
 ①実際の経験を積むことができる。：みなさんが教職員に尋ねたり、仲間とともに考えながら課題を解決していく「経験」を積む。それは、大学の中だけにとどまらない。大学は地域や社会とつながっている。教養を深めたり、専門の知識や技術を豊かにするためには、大学以外でも、ボランティアやインターンシップ、あるいは地域のイベント等に参加したりして積極的に活動してみよう。②ふりかえりをして、次に進むことができる。：経験はふりかえることで、豊かになる。授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ足りていないところはどこか、どうしたら目標を達成できるかなどについて、考えながら学んでゆくことができる。ふりかえりをして、自分の変化や成長を確認することを通して、学んでいく「自信」がついていくことができる。

**履修上の注意**

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

**予習・復習**

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。  
 ★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。  
 ★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

**評価方法**

1】期末レポート（50%） 2】毎回の課題の提出状況（30%） 3】授業への貢献度（20%）

**テキスト**

・教科書名：『スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル』  
 ・著者名：吉原恵子・間瀬泰尚・富江英俊・小針誠  
 ・出版社名：実教出版  
 ・出版年（ISBN）：2011（978-4407340617）  
 また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。

**授業概要**

本演習では、大学でどんなことを学ぶかしっかり目標を持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得できるよう心掛ける。大学では自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。本演習に参加することで、学ぶことの意味を各々が考え、有意義な大学生活が過ごせるようにして欲しい。

**授業計画**

第 1 回	大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成）
第 2 回	大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用）
第 3 回	授業の受け方を体得する①（ノートのとおり方、テキストの読み方）
第 4 回	授業の受け方を体得する②（レポートの作成法）
第 5 回	大学で学ぶ意味を考える（大学での目標、学力調査）
第 6 回	企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 7 回	企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第 8 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる）
第 9 回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる）
第 10 回	わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法）
第 11 回	意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 12 回	意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第 13 回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 14 回	自分の将来について考える②（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 15 回	自分の将来について考える③（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第 16 回	総括

**到達目標**

- ・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。
- ・大学での学び方を体得することができる。

**履修上の注意**

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論してほしい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

**予習・復習**

事前に指示した事項について調べ、翌週に答えられるような形で予習・復習に取り組むこと。

**評価方法**

授業への取り組み、課題の提出状況、レポート等により評価する。

評価の目安：課題提出 60%、レポート等 30%、その他 10%

**テキスト**

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年 (ISBN)：

**授業概要**

教養演習Ⅰの目的は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、そして読むこと、調べること、書くこと、発表することなど、今後の学修に必要なスキルを身につけることにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれ考え、貴重な大学生活を有意義に過ごしてほしいと思う。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第 2 回	大学生活に慣れる① 履修計画を立てる
第 3 回	大学生活に慣れる② 学内の規則・施設を知る
第 4 回	大学生活に慣れる③ 友だちを作って大学生活を楽しもう
第 5 回	授業の受け方を体得する① 講義ノートの取り方
第 6 回	授業の受け方を体得する② テキストの読み方
第 7 回	授業の受け方を体得する③ レポートの書き方
第 8 回	図書館ツアーに参加し、資料の検索方法を覚えよう
第 9 回	好きな本を読もうー読書発表会①
第 10 回	好きな本を読もうー読書発表会②
第 11 回	グループ研究とプレゼンテーション① ディズニーリゾートの創業史
第 12 回	グループ研究とプレゼンテーション② ディズニーリゾートの人材育成
第 13 回	グループ研究とプレゼンテーション③ ディズニーリゾートの投資とアトラクション
第 14 回	グループ研究とプレゼンテーション④ 改めてテーマパークの経営戦略を考えよう（映像あり）
第 15 回	春期の総括：初めての大学生活を振り返る
第 16 回	期末試験（課題レポート）

**到達目標**

- 1、大学の施設・設備を有効に活用できる。
- 2、自分の課題について調べ、要約し、伝えることができる。
- 3、大学での学び方を体得する。

**履修上の注意**

無断欠席・遅刻はしないこと、議論に積極的に参加すること。

**予習・復習**

与えられた課題をしっかりと準備し、発表してください。

**評価方法**

ゼミ参加の積極性と発表内容80%、期末試験20%で評価する。

**テキスト**

必要に応じてプリントを配布する。

**授業概要**

これから本学で4年間学ぶにあたって最初に勉強することが重要であると思われる経済学の基礎を学びます。これらの知識は、実社会では常識ですので、大学の早い段階で修得しておくことが望まれます。この演習では、基本的にはゼミ生全員が毎回指定された教科書の箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、本演習では事前準備や当日の議論などを通じて、大学における勉学の進め方の基本を修得することができると思います。

**授業計画**

第 1 回	経済経営学部で勉強すること
第 2 回	経済の語源は「経世済民」
第 3 回	何を選択し、何を捨てるのか。それが経済学
第 4 回	ものの値段は需要と供給によって決まる
第 5 回	なぜ高級ホテルのコーヒーは高いのか
第 6 回	付加価値の合計が GDP
第 7 回	お金がお金である理由は？
第 8 回	金融とはお金を融通すること
第 9 回	銀行は融資の仲立ちをしている
第 10 回	なぜ職業によって給料が違う？
第 11 回	近代経済学の父、アダム・スミス
第 12 回	見えざる手—市場の自動調整機能
第 13 回	社会主義の父、カール・マルクス
第 14 回	経済政策の常識を変えたケインズ
第 15 回	新自由主義の旗手フリードマン
第 16 回	課題レポートの提出

**到達目標**

- 経済に関する基本的な概念を、適切に理解できる。
- 経済学とはどのような学問であるのかについて、概要を把握できる。
- 報告資料の作り方を学び、各回の授業において事前に作成できるようになる。
- プレゼンテーションの手法を学び、各回の授業で適切にできるようになる。
- ディスカッションのやり方を学び、各回の授業において効果的にできるようになる。

**履修上の注意**

大学生活に慣れていくために、教養演習 I での経験は極めて重要です。資料の作成、発表、議論などの基本を春学期の間に是非習得しましょう。また、毎回出席することも当然必要ですので、その習慣をきちんと身につけましょう。

**予習・復習**

発表担当者は事前にその資料を準備するとともに、全員がテキストの指定された箇所を事前に読んで理解し、各回のゼミ終了後に内容を復習することが必要です。

**評価方法**

担当個所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

**テキスト**

- 教科書名：『池上彰のやさしい経済学 1 しゅくみがわかる』
- 著者名：池上 彰
- 出版社名：日本経済新聞出版
- 出版年月：2023年6月 ISBN：978-4-296-11769-7 本体 1,600円＋税



**授業概要**

教養演習Ⅰでは大学でのこれからの4年間に自分自身で学ぶべきことを考えていくように指導します。加えて大学での勉学に必要な知識、技能、学習態度を演習形式で指導します。

「演習」(ゼミ、ゼミナール)というのは大学で初めて登場する授業形式です。「演習」は座学形式の「講義」ではなく教員の指導の下で学生が自ら学習活動を行う授業になります。したがって学生の毎回の授業参加、課題提出、発表、質疑、討論が前提になっています。「演習」では学生同士が議論を通じて発言する能力や考える能力を伸ばしていくことが求められます。それ故、授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業内容の詳細は、以下の授業計画です。しかしこの演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます(したがって変更になる可能性があります)。

**授業計画**

第1回	授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」の説明等
第2回	自己紹介(与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練)
第3回	情報収集(新聞、雑誌、テレビ等のメディア)と注意点①
第4回	情報収集(パソコンやスマホ)と注意点②
第5回	ブックレポート(図書要約)の説明
第6回	情報収集(書籍)…学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第7回	本の読み方、買い方、使い方①
第8回	本の読み方、買い方、使い方②
第9回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表①
第10回	文章を書く、文章が書けるという学卒の人生
第11回	文章の表現技術…文章での1行の文字数、一段落の行数、番号の順番ルール(I→1→(1)→①→イ)など
第12回	文章の約束…参考文献、参照文献引用、コピペ(Copy and Paste)のルール。著作権、剽窃。
第13回	プレゼンテーション(準備、資料作成、発表の方法の技法)
第14回	ブックレポートの発表
第15回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表②
第16回	総括 修正後のブックレポートの提出。

**到達目標**

文章のルール、レポートの書き方、新聞の読み方、レジュメの書き方、発表の仕方など大学時代に必要な基礎能力を取得できる。

**履修上の注意**

- ・授業で提示する課題「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート(図書要約)」を定められた指定日(複数回ある)に提出のこと。その作業、訓練を通じて自分の能力を伸ばしていく。
- ・授業の進捗状況、受講生の理解度、関心度に応じてシラバスの授業計画は変更する場合があります。

**予習・復習**

- ① 次回授業での発表用意
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート(図書要約)」

**評価方法**

- ・新聞スクラップ・ブックの発表(20%×2)、ブックレポートの発表と提出(30%)、受講態度(授業への貢献)30%を予定している。詳細は授業で説明する。
- ・なお、毎回の発表に対してはフロアの学生(発表者以外の学生)による評価が行われる。しかしこれは発表した学生が自分を成長させていくための参考評価データとし、成績評価では勘案しない。

**テキスト**

授業時に紹介する。新聞(webでも代替可)とブックレポートでの本は読む。

**授業概要**

大学に入学して最初の演習として、これから4年間の大学での学修活動、さらには社会に出たあとにも必要とされる、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力（総称して「社会人基礎力」）などを伸ばすことを目的としたアクティブ・ラーニングを実践する。この演習では、①PBL（Project-Based Learning）形式で学修を継続することでリテラシー（知識活用）とコンピテンシー（行動実践）と呼ばれるジェネリックスキルを育成し、②大学や社会で求められる文章を書くための「アカデミック・ライティング」の基礎を学ぶことで、言いたいことを効果的に読み手に伝える技法を身につける。

**授業計画**

- 第1回 (テキスト第1章) オリエンテーション (スタディ・スキルズとは)
- 第2回 (テキスト第2章) ノート・テイキング：ノートをとること・メモをとること
- 第3回 (テキスト第3章) リーディングの基本スキル：二度読み方式
- 第4回 (テキスト第4章) より深いリーディングのために：要約する、感想・意見をもつ
- 第5回 (テキスト第5章) 大学図書館（情報メディアセンター）における情報収集
- 第6回 (テキスト第6章) インターネットによる情報収集(1)：インターネットを利用した文献調査
- 第7回 (テキスト第6章) インターネットによる情報収集(2)：ネット情報の真偽と裏取り
- 第8回 (テキスト第7章) 情報の整理(1)：文献リストを作成する
- 第9回 (テキスト第7章) 情報の整理(2)：有料データベースの活用（情報メディアセンター）
- 第10回 (テキスト第8章) アカデミック・ライティングの基本スキル：レポート・論文の作法
- 第11回 (テキスト第9章) 効果的なアカデミック・ライティングのために：文章のわかりやすさ
- 第12回 (テキスト第10章) パソコンによるライティング・スキル(1)：Wordでのレポート作成術
- 第13回 (テキスト第10章) パソコンによるライティング・スキル(2)：Excelでのデータ分析術
- 第14回 (テキスト第11章) プレゼンテーションの基本スキル：話すプレゼンテーション
- 第15回 (テキスト第12章) わかりやすいプレゼンテーションのために：リハーサルの重要性
- 第16回 総括（この演習のまとめ）

**到達目標**

- (1) 自分から意欲的に物事に取り組むことができる
- (2) 自分の意見を論理的に人に伝えることができる
- (3) 情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる
- (4) 大学や社会で求められる水準のレポートを書くことができる

**履修上の注意**

この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持ち、ジェネリックスキルを習得することにある。受け身の「座学形式の講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていくことを最も重視する。事前連絡なしの欠席・遅参を厳禁とし、疾病・負傷等による欠席は、必ず授業開始前に連絡する。演習回により、履修生各自にノートパソコンを持参していただくことがある。

**予習・復習**

- ・予習：テキストにしたがい進行するので、次回の該当章を事前に目を通す（90分）
- ・復習：手元の資料やノートをとった内容に基づき演習内容を振り返り、不足部分を補う（60分）

**評価方法**

①演習への取り組み姿勢（55%）、②演習内容での質疑応答内容（45%）、で総合的に評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント10.0pt以上が必要条件である。

**テキスト**

- ・教科書名：『知へのステップ（第5版） 大学生からのスタディ・スキルズ』
- ・著者名：学習技術研究会編
- ・出版社名：くろしお出版
- ・出版年（ISBN）：2019年（ISBN: 978-4-87424-789-1）

**授業概要**

教養演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。

**授業計画**

第1回	概要
第2回	大学を知る
第3回	ノートのとり方を学ぶ
第4回	テキストの読み方を学ぶ
第5回	レポート作成法を学ぶ
第6回	パソコンやスマホで情報収集する
第7回	新聞で情報収集する
第8回	時事問題を考える
第9回	図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ
第10回	議論の仕方を学ぶ
第11回	プレゼンテーション①準備
第12回	プレゼンテーション②資料作成
第13回	プレゼンテーション③発表
第14回	プレゼンテーション④発表
第15回	レポート作成
第16回	期末テスト

**到達目標**

- 大学の施設・設備を有効に活用できる。
- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。
- 大学での学び方を体得できる。

**履修上の注意**

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある

**予習・復習**

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

**評価方法**

授業への取組み（30%）、課題の提出状況（30%）、レポートまたは試験（40%）により総合的に評価する

**テキスト**

指定しない

**授業概要**

この演習では、「大学での学びの技術」を習得し、大学生活の基礎を作ること为目标に授業を行います。

大学では、高校までとは違い、自ら進んで学業を修めるといふ自発的・積極的な姿勢が必要です。よりよい大学生活を過ごすための基礎を作る時間にし、また、学修を通して、教員やクラスの仲間と親睦を深め、豊かな人間関係を構築していきましょう。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	ノートの取り方
第3回	テキストの読み方 1
第4回	テキストの良き方 2
第5回	レポートの書き方 1
第6回	レポートの書き方 2
第7回	資料の探し方
第8回	大学図書館の使い方
第9回	発表の仕方 1
第10回	発表の仕方 2
第11回	大学の試験と評価について
第12回	発表準備①
第13回	発表準備②
第14回	発表
第15回	まとめ
第16回	レポート提出

**到達目標**

本演習は、以下の2点を到達目標とします。

- ・大学で学ぶことの意義と目的を自覚し、学問に取り組む姿勢を身につけることができる。
- ・大学生活を送るうえで必要となる基礎的なスキルを使うことができる。

**履修上の注意**

- ・大学での学びの基礎となる科目のため、毎回の授業に必ず出席してください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、水野まで連絡をすること。

**予習・復習**

予習：テーマについて調べる。発表担当者は発表の資料（レジュメ・パワーポイント）を作成する。

復習：学習した内容を他の授業等で活用し、大学生活を送ること。

**評価方法**

- ・発表（40%）最終レポート（30%）毎回の課題（30%）で評価する。

**テキスト**

- ・テキストは定めない。必要な資料は適宜配布します。
- ・参考図書「大学生・学びのハンドブック [5訂版]」世界思想社編集部、世界思想社、1200円（税別）、ISBN：9784790717492

**授業概要**

大学生が卒業時まで身に付けておきたい態度や能力として「社会人基礎力」という考え方が参考になります。「社会人基礎力」とは、社会で活躍している人たちが身に付けている態度や能力の基礎部分を整理した考え方ですが、大きく捉えると、考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力の3つから成ります。そして、これらは、高校生までよりも大学生においてより一層重視されるようになる力でもあります。

そこで、この演習では、これらの能力等について学んでもらい、その後、皆さんの関心のあることについて話し合い、チームで調査するテーマを決め、実際に調査し、考察し、発表するという一連の流れを体験してもらうことで、考え抜く力（課題発見能力・考察能力・課題解決能力）、チームで働く力（コミュニケーション能力・協調性）、前に踏み出す力（主体性・実行力・プレゼンテーション能力）を伸ばしていきます。そのために、生成 AI や Word・PowerPoint の使い方を指導します。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション（教養演習Ⅰの目標と進め方）
第 2 回	自己紹介、大学生活と大学での学び（社会人基礎力等）
第 3 回	課題発見と課題解決、コラボレーション
第 4 回	考察の進め方、調査テーマの話し合い①（テーマの絞り込み）
第 5 回	調査テーマの話し合い②（テーマ決定）、班分け
第 6 回	生成 AI の使い方の練習
第 7 回	調査計画立案（調査内容・調査スケジュール・分担）、図書館ツアー
第 8 回	文章表現①（Word 練習、構成・文章）
第 9 回	プレゼンテーションの方法①（PowerPoint 練習 1、相手にどう伝える）
第 10 回	プレゼンテーションの方法②（PowerPoint 練習 2、表現上の技法）
第 11 回	中間発表
第 12 回	文章表現②（引用・参考文献）
第 13 回	文章表現③（著作権）
第 14 回	プレゼンテーションの方法③（発表の仕方）
第 15 回	まとめ作業
第 16 回	最終発表

**到達目標**

- ・大学時代に身に付けておきたい態度や能力とは何であるかについて説明できる。
- ・考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力を高校生の段階から大学生の段階へとレベルアップできる。
- ・文章表現・プレゼンテーション方法について理解し、一定程度使いこなすことができる。

**履修上の注意**

演習室で実習するため、各自 ノートパソコンを持って来る必要があります。第6回から使います。

「社会人基礎力」育成のプロセスを1年次に経験した学生は就活において高く評価されるということが分かっています。この演習ではそのとても実績のある手法でゼミを行います。関心のある方の参加を求めます。なお、チームでの活動になりますので、お互いに協力し、積極的に参加するという姿勢がとても大切です。

**予習・復習**

予習：事前に出された課題を行ってください。チームで決めた準備をしておいてください。

復習：演習内容を復習し、チームで決めた調査等を共同で実施してください。

**評価方法**

演習への取り組み姿勢（20%）、中間発表（30%）、最終発表（50%）で総合的に評価します。

チームでの活動ですが、発表は全員行います。

ただし、出席回数が10回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

**テキスト**

教科書は使いません。

学習用の資料を配布します。